

	<b>公益事業論</b> Public Utilities	中瀬 哲史
講義・半期・2単位	対象年次: 全年次	科目 No.

**【科目の主題】**

「公」の役割が再考されるなかでの公益事業のあり方

**【授業の到達目標】**

従来、公益事業は産業、経済にとってインフラストラクチャーと認められてきました。その「公益性」とは企業性と公共性のバランスされたものと考えられています。そして、日本の公益事業は全体として、諸外国で進む公益事業の見直しという流れがあっても、それほどの変化は起こりませんでした(例外として、通信事業は技術革新、運輸事業では企業経営の合理性を理由に民営化、規制緩和は進みました)。

しかし、日本の公益事業の中でも一つの中心であったエネルギー事業では、いよいよ、生産と小売において自由化が実施されています(流通分野は自由化から除外されています)。また、JR 北海道の事業運営は、運輸事業の位置づけを再考させることとなりました。

とはいえ東日本大震災は、公共性への留意を促すとともに、一方通行的だった公益事業に対して双方向性を導入させることをも迫っています。東日本大震災が一方通行性の限界を明らかにしたからです。

いわば、「官」でもなく、単純な「民」でもない、「公」をどのように考えて行けばいいのかとの現代にあって、公益事業はどのようなものと考えればいいのか。またどのようなものにしていくべきでしょうか。今年度は以上の問題意識を持ちつつ、受講生の方と検討していきたいと思います。

具体的には、公益事業のうち、エネルギー事業、放送・通信事業、運輸事業を中心に検討したいと考えていきたいと思ひます。

本講義の受講を通じて、公益事業とは何か、「公」空間とは何か、を改めて問い直していただければと思ひます。

**【授業内容・授業計画】**

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 第1回: ガイダンス              | 第9回: 運輸事業①(鉄道事業)   |
| 第2回: 航空事業-公益事業の規制緩和の始まり | 第10回: 運輸事業②(バス事業)  |
| 第3回: エネルギー事業①(電気事業)     | 第11回: 運輸事業③(地下鉄事業) |
| 第4回: エネルギー事業②(ガス事業)     | 第12回: 運輸事業の将来性     |
| 第5回: エネルギー事業の将来性        | 第13回: 水道事業         |
| 第6回: 通信・放送事業①(通信事業)     | 第14回: 公益事業と都市開発    |
| 第7回: 通信・放送事業②(放送事業)     | 第15回: まとめ          |
| 第8回: 通信・放送事業③(郵便事業)     |                    |

**【事前・事後学習の内容】**

事前学習: 次回授業で扱うキーワードの事前提示とそれへの取り組み

事後学習: 毎回の授業を踏まえた課題の提示とそれへの取り組み

**【評価方法】**

出席, レポート, 学期末の試験などからの総合評価

**【受講生へのコメント】**

まずは、受講生の皆さんの周りにある「公益事業」に関心を寄せてください。そして、それら公益事業はどのように社会と関係をもっているのか、その上でどのような事業運営がされているのかを考えてみてください。

**【教材】**

今のところ、特定のテキストは使用しません。参考書は講義中に適宜指示します。